当時の住居を再現した部屋や、石臼を使ったひきうす体験コーナーなど工夫が随所に。

厚別川がもたらす豊かな恵みが、今日の礎に

清田区

あしりべつ郷土館（きょうどかん）

地名の由来に歴史あり

平成9年、当時は札幌市内で最大の人口を有していた豊平区から分区して誕生した清田区。あしりべつ郷土館は、その長い歴史と先人の苦労を後世に伝え残そうと昭和58年（1983）に開館した。平成14年より清田区民センターに移転し、地域で使われていた農機具や生活道具をはじめ、写真や文献など、およそ1,800点以上の資料を展示・保存している。

館の名称でもある「あしりべつ」。昭和19年（1944）までこの地域は「厚別」と書いて「あしりべつ」と呼ばれており、その地名は清田区のシンボルでもある厚別川に由来する。以前からこの場所に暮らしていたアイヌ民族の人々は、鮭を採る仕掛けの多い川を意味する「アシュシヘツ」と呼び、明治以降に移住した人々によって、発音しやすい「アシリベツ」に変化したと考えられている。明治27年（1894）には函館本線が開通し、付近の駅名が「厚別」と記して「あつべつ」と呼ばれる。結果として川や地域が「あしりべつ」と「あつべつ」の二つの発音で読み書きされるようになったという。今も厚別区では厚別川をあつべつ川と読み、清田区ではあしりべつ川と読む背景やアイヌ語での意味なども、郷土館で詳しく解説されている。

コレも見どころ

読み応えのある「清田発掘」シリーズ

あしりべつ郷土館の運営にも学芸員的な立場で携わり、明治以降の清田区の歴史を30年以上研究している郷土史家の了寛紀明さん。北大図書館や道立図書館、道立文書館などに所蔵される文献や古地図、絵図や新聞記事などから丁寧に洗い出してきた清田区の歴史を「清田発掘」シリーズというレポート冊子にまとめている。60冊以上に及ぶ冊子は館内で閲覧が可能だ。

公式HP
https://ashiribetsu-museum.com/

その「アシュシヘツ」の地に明治6年（1873）に移住したのは、月寒開拓団の一員であった長岡重治である。現在の清田小学校あたりで最初に水田の試作を始め、それがのちに広がる稲作地帯の第一歩となる。

明治25年（1892）には北野・大谷地・月寒にかけて広大な農場を所有していた吉田善太郎ら地元の農家有志が協力して、厚別川から水を引く全長5kmに及ぶ素掘りの灌漑用水路（吉田用水）を開削。40～50人ほどの人員がスコップと鍬による手作業で約5カ月かけて堀ったものだ。これにより、清田・北野・大谷地にかけての一帯が広大な水田地帯に変わっていった。昭和40年代になると宅地化が進み、吉田用水は昭和45年（1970）に役目を終える。あしりべつ郷土館では、この吉田用水をはじめ清田区の歴史にまつわる動画を制作し、公式ホームページで公開するなど情報発信にも力を入れている。

稲作、畑作、林業の道具などが用途別に分類展示されている。

公式ホームページには自主制作の動画もあり、実に分かりやすく清田区のあゆみを学べる。

住　　所：清田区清田1条2丁目5-35
　　清田区民センター内
電　　話：011-885-0869
休 館 日：月・火・木・金・日曜、祝日
　　年末年始、区民センター休館日
観覧時間：10:00～16:00
アクセス：中央バス「清田小学校」停留所から約520m
資料収蔵数：約1,800点
開 館 年：昭和58年（1983）